

## 平成23年第2回定例会 堀井 勝議員 一般質問

～冒頭挨拶～

○堀井 勝議員 一般質問の機会を与您いただきまして、ありがとうございます。

私の会派から3人目で、私も約30分という持ち時間ですが、前任者が15分残されておりますので、約45分以内でやらせていただきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

去る3月11日に発生しました東北地方太平洋沖地震と、それによる津波で引き起こされた未曾有の大災害、東日本大震災からはや3カ月が過ぎました。死者1万5,500人、行方不明者7,306人を合わせて2万2,806人の方々が犠牲になられた上、約12万人もの方々が今なお厳しい避難生活を送っておられます。こうした皆様に心からのお見舞いを申し上げますとともに、不幸にして尊い命を亡くされました皆々様の御冥福をお祈り申し上げます。

また、不幸にしてこの災害に見舞われた方々の救助、救出、救援などにかかわられました本市及び枚方寝屋川消防組合の職員の皆さん初め関係機関や全国のボランティアの皆様心から敬意を表するところでございます。

私たちは政権与党の一員として、東北地方の一日も早い復旧、復興に向け、心を一つにして頑張ってまいりたいと思っています。

## 平成23年第2回定例会 堀井 勝議員 一般質問

### 1. 安全、安心のまちづくりについて

～1回目質問～

○堀井 勝議員 政府は去る6月14日、2011年版防災白書の閣議決定をされました。それによりますと、このたびの災害を未曾有の大災害と位置付け、今後想定されます地震のマグニチュードや津波の高さなどの見直しと、東海・東南海・南海の3連動地震及び首都直下型地震などに対する防災基本計画や、地域のハザードマップを再点検し、広域災害への対応や国際的な防災協力体制を推進するとしています。

また、去る6月16日、3連動地震（東海・東南海・南海地震）の発生で最も被害を受けると予想されます静岡、愛知、三重、和歌山、徳島、高知、愛媛、宮崎、そして大分の9県の知事会が設立され、3地震が連動して発生した場合、被害額は日本の国家予算に匹敵する規模になることから、予想される揺れや津波の高さ見直し、避難場所や避難経路の確保など、減災対策を強化しなければならないことや、極めて広い地域が被災することが予想され、都道府県の境を超えた広域連携の体制

作りを求める提言書をまとめ、政府に提出されたと仄聞いたしております。

本市は平成17年4月より危機管理課が創設され、以来、私たち議員からの数々の提言を取り入れられて、防災対策、震災対策など多角的な観点から安全・安心のまちづくりに取り組んでこられました。その内容について述べている時間がないので、省略させていただきますが、3月11日の大災害以来の防災対策や震災対策はどのように取り組まれようとしているのか、お尋ねをいたします。

## ～ 1 回目答弁～

○佐藤伸彦市民安全部長 安全・安心のまちづくりについてのうち、防災対策についてお答えをいたします。

東日本大震災発生後、本市の防災体制について検討を行い、早急に対処しなければならないこととして、アルファ化米や毛布など、大阪府で定めている重要物資等の備蓄品の確保、避難所や災害対策本部等に必要な非常用電源や照明器具等を備えることで機能の充実を図ることといたしました。

また、職員、市民の防災をさらに高めるような取り組みを今後行ってまいります。

○戸野谷伸夫公共施設部長 続きまして、震災対策についてお答えをいたします。

市では、さきの東日本大震災を受けまして、去る16日に開会されました議会の一般会計補正予算の中で、来年度以降に耐震診断を実施する予定をしておりました市民会館大ホールや本館並びに総合福祉センターの耐震診断の繰り上げ実施と、市民会館大ホールの天井落下防止補強工事の実施について御承認をいただきましたので、実施に向けて準備を進めているところでございます。

また、保育所や幼稚園など他の市有施設につきましても、市有建築物耐震化実施計画に基づき計画的に耐震化を進めていく考えでございます。

## ～ 2 回目質問～

○堀井 勝議員 けさほど清水議員からも防災に対する御質問がありましたので一定理解をさせていただきました。私からは、自主防災組織の強化策はどのように取り組まれているのか、お尋ねをいたします。

## ～ 2 回目答弁～

○佐藤伸彦市民安全部長 お答えいたします。

自主防災組織につきましては、各校区において防災訓練などに取り組んできていた

だいてるところでございますが、また、本年3月には市民を対象に第1回の枚方市地域防災推進員育成研修会を開催をいたしまして、45人に受講していただきました。

今後も計画的にこの研修会を開催し、平成26年度までに540人の地域防災推進員を育成する予定であり、このことが自主防災組織の強化につながるものと考えております。

### ～3回目質問～

○堀井 勝議員 ありがとうございます。

大災害が発生しますと、初動体制はやっぱり地域の自主防災会に委ねるところが非常に大きいと思います。

ただ今は地域防災推進員を育成していくということですが、それも大事なことです。しかし、繰り返し繰り返し訓練をしていくということが大事ではないかと思えます。

けさほど清水議員から避難所問題についてお話もございました。その辺も含めて考えていただきたいというように思います。

次に、東日本大震災を教訓に、先ほど申し上げましたように、東海・東南海・南海の3連動地震や、本市域や府内にある生駒断層帯及び上町断層帯地震にどのように備えていくかといったようなことで、討論会やフォーラムを開催してはいかがかというように思いますが、どのようなお考えでしょうか。

### ～3回目答弁～

○佐藤伸彦市民安全部長 お答えいたします。

防災をテーマにした講演会やフォーラムなどの取り組みにつきましては、市民の防災意識を高める機会にもなるため、ぜひ実施してまいりたいと考えております。

### ～4回目質問～

○堀井 勝議員 できるだけ早い時期に取り組みられることを要望いたします。

また、地域防災計画の避難場所や避難経路の見直しを初め、防災計画の抜本的な見直し、また、各地で液状化現象というのが起きているわけですが、枚方市にあっても液状化が予測される地域の特定、そういったことも必要ではないかというように思えます。ぜひ早期にお取り組みをいただきますよう、御要望にかえさせていただきます。

次に、東日本大震災の発生を受けて、市有建築物耐震化実施計画における実施年度を繰り上げて耐震化を図られることは一定評価をいたしますが、未曾有の大災害が発生したにもかかわらず、市民の尊い命と病気の治療に当たっておられる市立市民病院の耐震化は新病院建設に委ねて、その開設までの間、現病院で営業を続ける

ということであります。耐震性について、どの程度の保証ができるのかお尋ねいたします。

また、現在建築工事が進められています牧野駅東地区第一種市街地再開発事業の再開発ビルは新耐震設計法で設計されていると思います。したがって大震災に備えるだけのものはあると思いますが、牧野の再開発ビルが完成し、引き渡し後に、その耐震性が十分でなかったということが判明した場合、どのような補償を考えておられるのか、お尋ねをいたします。

#### ～ 4 回目答弁～

○戸野谷伸夫公共施設部長 まず、現市民病院の耐震性についてお答えをいたします。

現在の市民病院の建物は、昭和37年から昭和52年までの間に完成した部分がほとんどでございまして、いわゆる旧の耐震基準で建てられております。

建物の耐震性は震度で表現されることが多いわけですが、気象庁が定める震度と建築物の構造設計に用いる設計用地震荷重は直接的には関連しておりませんので、旧耐震基準で建てられた建物が震度幾らまで耐えられるかは一概に論ずることができませんが、気象庁がまとめた「気象庁震度階級の解説」に、各震度階級に応じた鉄筋コンクリート造建築物の状況を示した表が掲載されております。この解説によりますと、現市民病院など旧耐震基準で建てられた建物は、おおむね震度6強で部材に大きなひび割れや亀裂が見られることがあり、柱が崩れ、倒れる場合もあるとされておりますことから、倒壊などを生じることのない限度といたしましては震度6弱程度が一応の目安になるかというふうに考えております。

○脇田隆男理事兼都市整備部長 引き続きまして、牧野駅東地区の再開発ビルに關しましての御質問にお答え申し上げます。

本再開発ビルにつきましては、第三者機関による構造審査を経て建築に着手しており、施工につきましても各工程ごとの検査を徹底するなど、特定建築者の京阪電鉄不動産株式会社に適切な工事の遂行を確保するための指導等を行ってきております。

しかし、万が一、基礎や柱などの構造耐力上の必要な部分等に瑕疵があった場合に備えまして、住宅の品質確保の促進等に関する法律に準じ、京阪電鉄不動産株式会社に10年間の瑕疵担保責任の履行を求めていく考えでございまして。

#### ～ 5 回目質問～

○堀井 勝議員 牧野駅前の再開発に御協力されました地権者の方、大変御心配なされておられますので、この点はよろしくお願ひしたいと思ひます。

本市の市民病院は唯一自治体病院として災害時にも対応が求められることから、免震構造も採用され、耐震性の高い新病院の建設がなされようとしています。しか

し、その開設までにはまだ2年もかかります。この間に大地震が起こらない保証はどこにもありません。現病院に多額の費用をかけて耐震化をすることはナンセンスと思われるかもしれませんが、入院患者や外来患者の尊い命のことを考えますれば、実施可能な地震対策を講じるべきだと思いますが、いかがお考えでしょうか、お尋ねいたします。

## ～ 5 回目答弁～

○小池正明病院事業管理者 現病院の耐震化につきましては、建物を使用しながらの工事ができないこと、建物の寿命なども含め経済性に問題があることなどから、補強工事ではなく建て替えを行うとの方針を平成17年3月に策定した市立枚方市民病院基本計画に定め、現在、新病院の建設を進めているところでございます。

議員御指摘のとおり、事業が完了するまでの間の安全確保対策につきましては、本院としてもできる限りの努力をしていかなければならないことは十分認識いたしておりますので、地震時の落下物等による危険から入院患者様等を守るために、適切な避難誘導體制を確立するとともに、施設・設備点検基準を策定し、病院内の総点検と防止対応を進めてまいりたいと考えております。

## ～ 6 回目質問～

○堀井 勝議員 小池病院事業管理者から、新病院が開設されるまでの間、現病院の震災対策について御答弁をいただきましたけれども、私は到底納得できるものではありません。なぜなら、最近の自然の猛威はいつ襲ってくるかわからないからです。

計画的な投資で災害対策を進めていくことはもちろん大切ですが、3月11日以降、未曾有の大災害が発生して以降、しかも同様の地震がいつ発生するかわからないにもかかわらず、それに対する対応を講じないということは、決して許されるものではありません。枚方市立市民病院の開設者であります竹内市長はどのようにお考えなのか、お尋ねをいたします。

## ～ 6 回目答弁～

○竹内 脩市長 本市では、安全で安心して暮らせるまちづくりの重要施策として、市有建築物耐震化実施計画に基づき学校施設や市有施設の耐震化を最優先に進めてきたところであります。その中で、市民会館大ホールにつきましては平成24年度以降耐

震診断の実施、市民病院については建て替えにより耐震化を図ることとしておりましたが、本年3月に発生した東日本大震災の惨状を踏まえ、市民会館大ホールなどにつきましては耐震診断を前倒しして実施することとしたところであります。

そのようなことから、市民病院につきましても新病院の建設計画を着実に進めることは当然大事なことであるわけではありますが、それまでの間、現状における最大限の措置を講じるよう指示し、新たな具体化も含め、その取り組みを進めてもらっているところでございます。

## ～ 7 回目要望～

○堀井 勝議員 設置者である竹内市長から、「現状における最大限の措置を講じることと、新たな具体策も考えている」ということですので、そこに私は期待して、要望に変えますが、もう少し具体的に、いつ、どのようにするというようなお答えがいただきたいかと思えます。

皆さんも御承知のとおり、JR宝塚線で脱線、転覆事故がございました。運転手がスピードを出し過ぎたのではないかと、ATSが働かなかったのではないかと、いろんなことを言われておりますけれども、やっぱり最大の責任者はJR西日本の経営をしている社長が責任を問われるわけですから、本市の市民病院も例外ではありません。したがって、市長におかれましては、設置者としてどういうようにすることが市民に対する安全・安心の保証ができるのかということ、真剣に考えていただくことを強く要望しておきます。

## 平成23年第2回定例会 堀井 勝議員 一般質問

### 2. 住み続けたいまちづくりについて

#### ～ 1 回目質問～

○堀井 勝議員 次に、住み続けたいまちづくりについての内、枚方市駅周辺、庁舎、文化施設等の整備について質問をさせていただきます。

枚方市駅北口周辺整備については昭和50年以來の課題で、庁舎や文化施設の整備問題も約20年も前から、時には本市議会に特別委員会まで設置し、検討に検討を重ね続けてこられたところであります。

さきの建設委員協議会に枚方市駅周辺整備ビジョンに係る基礎調査について報告があり、この議会でも既に前田議員、鷺見議員、そして藤田議員から、それぞれの御質問に対する御答弁をお聞きし、一定認識させていただいております。

私はここでお尋ねしたいのは、単なる言葉の羅列ではなく、行政としてのやる

気度、本気度についてお尋ねをいたします。

## ～ 1 回目答弁～

○脇田隆男理事兼都市整備部長 2の住み続けたいまちづくりについてお答えをいたします。

枚方市駅北口周辺を含む枚方市駅周辺地域につきましては、近隣都市に先駆け昭和30年代後半から幹線道路や連続立体交差事業などの都市基盤施設の整備を進めるとともに、再開発や歴史的景観を生かしたまちづくりなどにも取り組んでまいりました。

平成16年にはこれらの取り組みを集約いたしますとともに、枚方市周辺から香里園駅周辺地域にかけて将来的なまちづくりの目標、方向性を示した枚方市駅周辺整備基本構想を策定いたしております。

今回策定を進めております枚方市駅周辺再生ビジョンにつきましては、この基本構想のうち枚方市駅北口から南口にかけての区域を重点化し、本地区に求められる交通環境や土地利用の在り方など、将来的なまちづくりの方針を確立していきたいと考えているものでございます。

今後は本ビジョンの早期策定に向け、幅広く市民や事業者、また専門家の御意見をお聞きしながら方向性を見出してまいります。

## ～ 2 回目質問～

○堀井 勝議員 ただ今脇田理事から、一定の答弁をいただきました。

私が今お聞きしているのは、単なる言葉の羅列ではなく、本当にやる気があるかどうか、また、それぞれの課題をいつまでに、どのあたりに、整備をするとか、しないとか、この答えをいただきたいわけであります。

私は、32年議員をやらせていただいておりますが、これまで担当部長がかわられるたびに、ああでもない、こうでもない、いろいろと述べておられるだけで、この間20年、40年もの間少しも進んでいないというのが現状であります。

ところが、この間に、お隣の寝屋川市は人口24万人であります。しかも京阪電車の特急も停止しないということにもかかわらず、寝屋川市駅の高架化は進むし、駅前整備は進んでいる。また、つい最近ですが、香里園の駅とその周辺等は、目をみはるような整備が進んでおります。また、それだけでなく、JR学研都市線の東寝屋川駅の周辺整備もされております。

これは馬場市長さんの寝屋川市域の主要な駅周辺整備に対する強い強い思いがあるからにはほかならないと思います。

中核市を目指す本市の玄関である枚方市駅周辺整備や文化施設の整備、庁舎周辺

整備等は、間もなく迎えます市長選挙におけるハード面での大きな争点になるのではないとかいうように思います。したがって、竹内市長さんがもし市長選に出られるのであれば、これについての一定の見通しを表明されるべきだと思いますが、いかがでしょうか、お尋ねいたします。

## ～ 2 回目答弁～

○竹内 脩市長 枚方市駅周辺につきましては、41万都市の玄関口として、また、北河内の中核都市としての中心地にふさわしい活力と風格あるまちづくりへの新たな再構築が必要であると考えております。

そうしたまちづくりを進めるに当たっては、将来のまちの発展を視野に入れ、実現可能な方策を検討するとともに、特に市駅周辺の土地及び現庁舎跡地の有効活用に当たっては、民間活力を最大限有効に活用し、事業者と連携していくことも重要であると考えております。

これらのことを踏まえ、引き続き枚方市駅周辺地域全体につきまして総合的な検討を進める必要があると考えております。

そのような中で、総合文化施設につきましては、市民会館大ホールの老朽化はもとよりとして、市民の文化活動の振興、ひいては本市の都市活力の向上につなげていく観点から、どうしても早急に取り組まなければならない最重要課題の一つであると考えております。

## ～ 3 回目要望～

○堀井 勝議員 ただいま竹内市長から、総合文化施設の整備はどうしても取り組まねばならない最重要課題の一つであるというように御答弁がなされました。しかし、駅周辺や庁舎など、周辺整備については市域全体についての総合的な検討が必要ということであります。

私は、財源確保や市税収入などの多角的な考え方が必要であるというように思いますが、どこをどのように整備するか、また、整備主体など具体的な試案を提示しなければ、民間事業者とてなかなか加わっていただけないと思うわけです。したがって、ここにこういうものを作りたい等々具体的に出していくことで、民間事業者もこれに参入していただけるのではないかと思います。

ぜひ早急にそういったことを取り組んでいただきますよう、要望しておきます。



## 平成23年第2回定例会 堀井 勝議員 一般質問

### 3. 活気とにぎわいのあるまちづくりについて

#### ～1回目質問～

○堀井 勝議員 3点目ですが、活気とにぎわいのあるまちづくりについての内、具体的な産業振興策についてをお尋ねします。

昨年制定されました産業振興基本条例の中身をより実現性と実効性の高いものにするための具体的な産業振興策をどのように展開されようとしているのか、お尋ねいたします。

また、あわせて6つの大学と7つの企業団地や都市近郊の農業との連携をどのように進められようとしているのか。

#### ～1回目答弁～

○宮本勝裕地域振興部長 3、活気とにぎわいのあるまちづくりについて、お答えいたします。

産業振興基本条例では、事業者の創意工夫や自助努力のもと、市、事業者、経済団体、市民の連携、協力や、産業分野の枠組みを超えた連携による新たな展開、そして次代の産業を担う人材の育成などを基本方針としております。

効果的な産業振興策を企画、展開するためには、現場の実態を知ることが不可欠であると考えており、まず、枚方の物作りの大きな特色であります7つの企業団地を訪問し、工場の視察や意見交換を行ったところでございます。

今後も商店会を初め各産業現場への訪問視察やアンケートによる実態調査などにより、事業者の生の声を聞かせていただくことにしております。

また、昨年11月から毎月1回開催しております地元産品のこだわり市、マルシェ・ひらかたや、7月からスタートさせますワーキンググループの活動を通じまして、地元産業への市民の関心を高めるとともに、市がコーディネーター的な役割を担い、産業間連携や産業と大学との連携、また、後継者作りの仕組みなど短期的、中長期的な課題の整理を行いながら、具体的施策の展開に反映させていきたいと考えております。

#### ～2回目質問～

○堀井 勝議員 昨年11月からマルシェ・ひらかたに取り組んでいただいているということには敬意を表します。

ところで去る、6月10日の、朝日新聞には、豊能産100%の納豆を地元の納

豆屋さんが年間2,000食地元で販売したいという内容の記事が大きく掲載されておりました。

枚方市の産業振興基本条例では農業も含めていくということでもありますから、豊能町同様ぜひ農業問題にも取り組んでいただきたいと思います。

先ほどもお聞きしましたが、枚方市には6つの大学がございまして、中でも摂南大学には、薬学部があるわけです。この薬学部でつくっている「のどあめ」（これは市長に進呈しますけれども）、表紙に書かれている「摂大のどあめ」と書かれています。これは摂南大学の薬用植物園、それから東京大学小石川植物園の共同でつくった「のどあめ」でカリンとギンナン、ユズなどでつくっていると書いてあります。これが毎年秋に行われる本市の「健康と福祉のフェスティバル」に、いつも摂南大学が来ておられており、このときにこの「のどあめ」を無料配布されています。

摂南大学は枚方市域にあります。この摂南大学がこの「のどあめ」をつくっておられるのは、岐阜県で作られています。枚方にある摂南大学の薬学部となぜ提携ができないのか、不思議で仕方ありません。こういったことをぜひ取り組んでいただきたいと思います。もう一つは、本市に友好都市の物産を扱ってる場所があります。これはちょっと古い資料ですが。私は四万十市の、健康茶というものを買ったことがあります。ウコン、タラ、カキの葉、ドクダミ、スギナ、ヨモギ、桑の葉、これだけのお茶を友好都市がこちらに持ってきて売っておられます。私はこれを買ってかえってせんじて飲んでいるわけですが、こういったことは枚方市の農業でも出来ますし、それによって枚方市民の健康に役立てるべきだと思います。そういったことを地域振興部がやるべきでないかというように思います。

そういったことを申しあげまして、質問に入らせていただきます。

先ほどワーキンググループを作るとかいうこともございました。要は地域振興部の産業振興課の、職員の皆さんが余りにも枚方の産業について知らな過ぎるのではないかというように思います。そういう意味では、けさほど質問されました清水議員、流通の専門家であられますから、大いにこれから職員の皆さんも清水議員に聞かれて勉強されたらいいと思うんです。私も勉強したいと思います。

ところで、今度つくられるワーキンググループとは、どんな活動をされるんでしょうか、お尋ねします。

また、本市には地域活性化支援センターというのがございますが、この支援センターが本市の産業振興にどんな役割を果たしているのか、併せてお尋ねをいたします。

## ～ 2 回目答弁～

○宮本勝裕地域振興部長 お答えいたします。

ワーキンググループは、各産業分野における実践家や若い担い手、枚方市の産業振興に熱意と関心を持つ市民などにより構成するものでございます。活動は7月から開

始し、意見交換、情報収集、現場での研究調査などを通じて、枚方ならではの産業振興策について議論していただき、具体的な企画提案をしていただくことにしております。

この中で、議員お示しのように、産業と大学の連携、また、地元農産物の有効活用による枚方ブランドの創出といったテーマについても議論していただく予定でございます。

また、平成17年に輝きプラザきらら内に開設いたしました地域活性化支援センターでは定例の専門相談窓口を設け、経営管理や販路開拓、品質・生産管理など、商工業のさまざまな分野での相談に応じているほか、新たな事業の創出を目指す事業者へのアドバイスや、大学研究機関と事業者との連携調整、各種セミナーの開催などを行っております。

センターでのこうした取り組みは、新たな創業や起業を初め商工事業者の経営改善にもつながっております。

### ～ 3 回目質問～

○堀井 勝議員 ワーキンググループで、ぜひ私が先程申し上げたようなことを検討いただきたいと思います。

地域活性化支援センターのアドバイザーは出前相談にも行かれているかどうかということと、アドバイザーがアドバイスした記録誌があると思います。どういうことを相談に来られて、どういう回答をしたとか、どういう指導をしたとかいう記録誌が残っていると思うんです。この記録誌が適切な指導をされているかどうかというチェック、これはだれがしてるんですか。ここが重要なんです。アドバイザーが、いろいろ話や指導をされていてもそれが枚方市の産業振興策と、合致しているかどうか。いわゆる戦略、戦術的に合ってるかどうかということが最も大事なことでありますから、この点についてお尋ねいたします。

### ～ 3 回目答弁～

○宮本勝裕地域振興部長 お答えいたします。

地域活性化支援センターには24人のアドバイザーがおり、それぞれ担当分野の市内事業者を巡回で訪問するとともに、個別の訪問相談にも応じております。

昨年度の実績といたしましては、447事業者から経営や情報技術に関するものなど919件の相談を受け付けており、そのうち354件は実際に現場に出向いて、経営革新や研究開発などに関するアドバイスに当たったものであります。

こうしたアドバイスの記録のチェックにつきましては、地域活性化支援に関する業務を委託しております北大阪商工会議所の担当責任者が一義的には行っております。

## ～ 4 回目質問～

○堀井 勝議員 活性化支援センター、私も不勉強で大変申し訳ございませんでしたが、これだけいろいろやっただけなのに、どうして枚方市の産業がどんどん発展しているというようなことを耳にできないのかというのが不思議でなりません。だから、ぜひこういったことを私たちにもPRをしていただきたいと思います。

そういった意味で、地域振興部の職員さんが出向いて行って、いろいろ見聞をして、それで相談に応じるということは最も大事ですし、それから専門家を同行されて相談に乗ってあげるというのは、事業者にとって大変意義のある心強い支援になると思います。

今後展開されます産業振興策は、常に本市の置かれている状況を徹底的に分析をされて、専門的な観点と戦略的な観点から事業展開をしなければなりません。日本には国の戦略性がない、国家としての戦略性がないと、言われている。枚方でもそういう戦略を持ってそれをこなしていくということが最も大事じゃないかなと思います。

それと、先ほど言いましたように、アドバイザーがアドバイスをされて、それが適正であったかどうかというチェックをできる人、これを委託先の北大阪商工会議所にお任せしている。これでは余りにも無責任過ぎます。したがって、地域振興部にそういうチェックの出来るアドバイザーをお雇いになられて、常にその人がチェックをする、チェックをかけていくということが最も大事だと思います。今後どのように取り組まれるかお尋ねします。

## ～ 4 回目答弁～

○宮本勝裕地域振興部長 お答えいたします。

現状に即した実効性のある産業振興策を考える上で、議員お示しのように専門的なスキルを持ったアドバイザーをより有効に活用することが重要であると認識しております。

今後は専門性を持った経営アドバイザーと産業振興を担当する職員とがより情報を共有化し、市内事業者に対しましてより効果的な支援ができるよう、配置も含め体制の強化に努めてまいります。